

ROYAL-TIMES

—ロイヤルホームの新しい生活—



写真= 4F庭園に咲いたアマリリス

紫陽花

小森 公美
2021年 5月 13日

雨と紫陽花とカタツムリが似合う季節になり、穴の開いた傘を新調しようと思って梅雨入り宣言を待っているうちに夏のような暑さがやってきました。

紫陽花の花の色は土壌の酸性度によるそうですが、どちらだと何色になるのか、なかなか覚えられません。何か一度で覚える方法はないのでしょうか。

酸性度と聞くとリトマス紙を思い出します。調べてみると、リトマス紙は酸性だと赤に、紫陽花は青い花が咲くとの事で真逆でした。酸性の土はアルミニウムが溶けて、根から吸収され、紫陽花がもっている色素にアルミニウムが加わり青くなるのだそうです。

同じ株でも花の色が違うのは、根から送られてくるアルミニウムの量や品種による差だそうです。さらに、日が経つとだんだん色が変わるので、一概に花の色を見て土壌の酸性度を知る事はできないようです。

何でもそうですが、「これさえ見ればわかる」、「これさえ食べれば大丈夫」という物は無いのだなと紫陽花に教えられた気持ちです。リトマス紙等の決まっている事は語呂合わせくらいは出来そうなので、何事も地道に頑張ろうと思いました。



写真=ローソン移動販売の一場面
日用品を手にとって悩んでいるご入居者様



写真=ローソン移動販売に参加されている様子(2021年5月18日)

ローソン移動販売

前原 咲菜
2021年5月31日

毎月、第1、第3火曜日の14時から1時間程度、エントランス前にて軽トラックでローソンの移動販売が開催されます。ゴールデンウィークや大晦日など、長期休みの時はありませんが、毎回、ご入居者様の楽しみの一つとなっています。

新型コロナウイルスの感染拡大もあり、以前はお買い物に行かれていた方も、中々外出が難しくなり、日常生活品の補充や衝動的な購入意欲を満たす事が難しい環境となってしまいました。

ローソン移動販売は、私たちが普段利用するコンビニエンスストアとほとんど変わらず、日用品からパン、おにぎり、お菓子、アイスクリーム、飲み物、ご飯のお供など品ぞろえ豊富であり、コンビニエンスストアの魅力はそのままの印象です。全国に数台とごく少ない移動販売カーの為、地域の方も利用されているようです。

ご入居者様は、「〇〇が欲しい」、「〇〇はないかな?」と販売している店員さんや職員と楽しそうに、

会話を交えながら商品を吟味して買われています。

気付くと、入居者様の買い物かごの中には、毎回たくさんの商品が詰め込まれている状態です。意中の商品がない場合は「次回お持ちします」と店員さんが即座に対応してくれるのも魅力の一つです。ご入居者様の好みに合わせた販売カーへと変化していきますので毎回大繁盛です。

ある入居者様は、「天気もいいし、気分も良くていつもよりたくさん買っちゃうわ」と笑顔で話されていました。勿論、外気の状態に関わらず、トラックの中の温度は、常温、20度、冷蔵、冷凍の4温度帯に対応しているのでこの点も安心できます。

ご入居者様の体調がすぐれない日には、職員が代行して購入することもできます。また、職員も利用することができるため、ご入居者様のみならずロイヤルホームに欠かせない存在となっています。

ご入居者様の購買意欲や嗜好品購入によりQOLの向上に繋がれば幸いです。

今月のトピック

・ロイヤル園芸クラブ

・委員会活動報告(法人 救急班)

・スタッフ紹介

ロイヤル園芸クラブ

石井 太一
2021年5月30日

“大地”との触れ合いの場、それが当クラブの醍醐味です。4F屋上庭園のミニ農園区画では今日も営繕石原が汗を流して栽培管理をしております。今年も夏作として5月13日に、キュウリとゴーヤの苗の移植を行いました。牛糞堆肥と化成肥料（窒素・リン酸・カリ）で丁寧に耕して作った畝に苗を植え付けていきます。ウリ科の野菜は、つる性植物の為、支柱とネット張りも施しました。土壌には一般的なマルチシートは張らずに、屋上庭園に生い茂る、ヒノキ科コノテガシワの葉を採取し、畝に敷き詰めていきます。これはヒノキ科の成分によって害虫予防に役立つと考えています。同じく防虫効果のあるマリーゴールドも寄せ植えする事で、当クラブ式の害虫対策を強化しました。

梅雨到来の季節となっておりますが、晴れ間がのぞいた日に、ご入居様と外気に触れ、ツルの伸びゆきや葉の成長を確かめながら季節を感じて頂けたらと思っております。私達スタッフも、日々キュウリやゴーヤの成長の変化に気づきを働かせて、ご入居様に説明や声掛けが出来る様にクラブ参加に努めてまいります。

我が国はアジアモンスーン地帯であり、高温多湿な気候のゆえに雑草との闘いがついて回ってきます。雑草は土の養分や水分を奪い、作物に日が当たらなくなるといった悪影響を及ぼします。鍬や鎌を駆使して除草を行う事は、当クラブのMustな管理作業ともなっています。

地域で農業従事者をされていたご入居様にジャガイモ、ソラマメ、ミニトマト等、他の野菜もご覧になってもらいお言葉を頂きました。「男爵薯はキタアカリより背が低いんだよ。」と一目で品種を見分けられ、「農協や市場に出荷していたんだ。」と終始笑顔で当時の事を思い出されているご様子でした。ミニトマトに対しては、「剪定が必要だね、枝が多いとみんなが肥料を吸い上げるから小さい花、小さい実になってしまうよ。剪定する事は木の為に何よりいい。」と専門職ならではの素晴らしいエビデンス（根拠）を教えてくださいました。

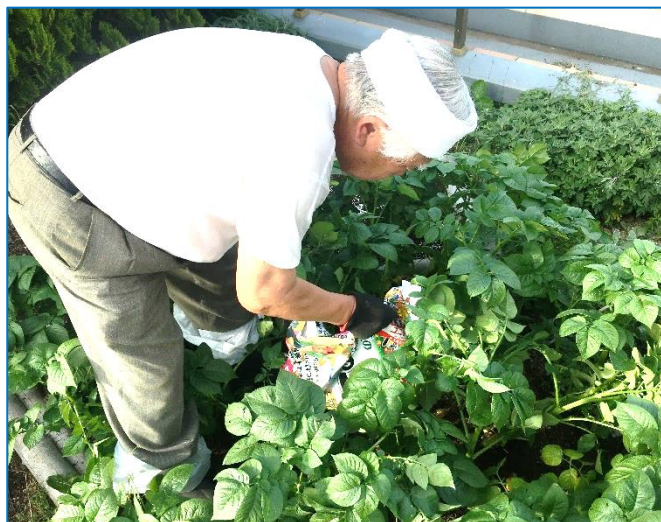
ホームの暮らしに『Agriculture』即ち、“大地の文化”を肌で感じる事が出来るのが、ロイヤル園芸クラブです。私達スタッフがご案内致します。



写真= 購入した野菜の苗(きゅうり、プチトマト、唐辛子等)



写真= プチトマトの様子をみている入居者様と介護士



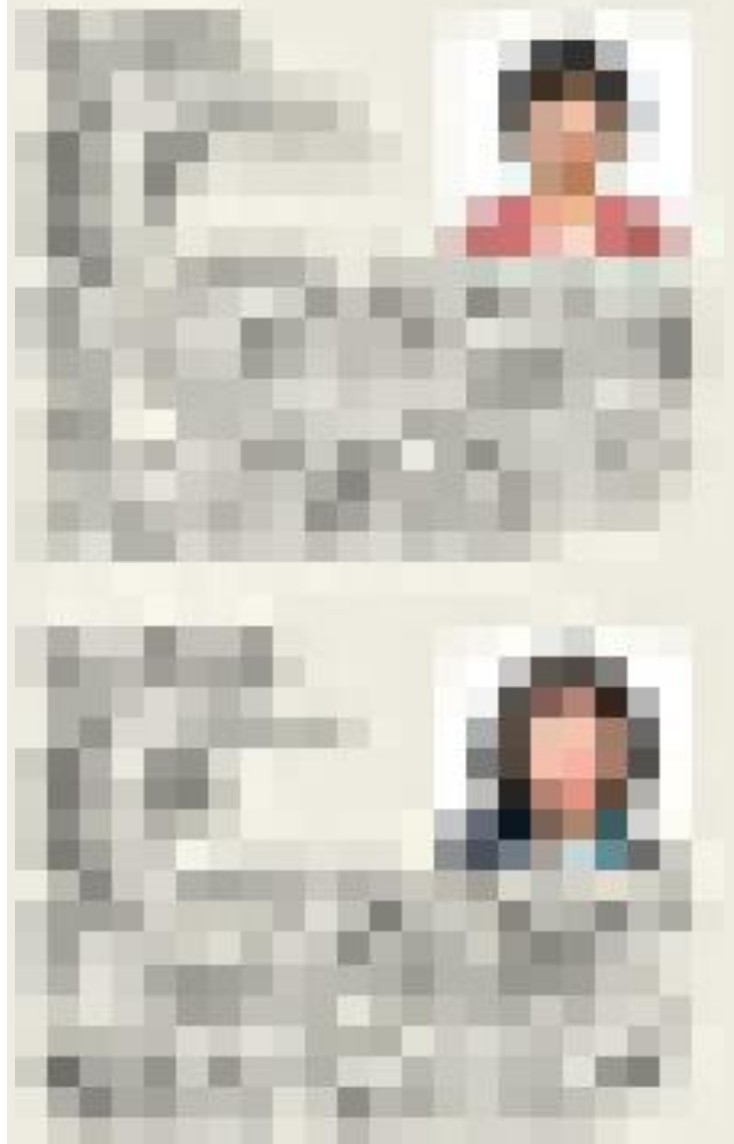
お知らせ

6/4(金)より、新型コロナウイルスのワクチン接種（1回目）を開始いたしました。訪問診療の医師がご入居様のお部屋を回り、順次実施しております。2回目の接種も含めると、7月中旬には完了する予定です。ワクチン接種が終了すると集団免疫により、より高い安心感が得られると考えます。

写真= ジャガイモの手入れをしている場面

スタッフ紹介

2021年5月29日



振り返り

岡 聖史
2021年 5月14日

田村正和さんが亡くなり、古畑任三郎のドラマを思い出される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。風変りな刑事が、様々な情報をもとに収束的思考（一つの結果にたどり着く）を駆使し、犯人を突き止めていくものです。加えて、個性豊かなキャラクター達が多くを誘います。“笑い”には、発散的思考(アイデア)が必要であり、事件を解決していくのとは逆の発想です。一つの作品で二つの思考を織り交ぜるには苦労があったかと推察します。ロイヤルでの新しい生活も、もっとアイデアを捻出し、豊かにしなくてはと思いました。

委員会活動報告（法人危機管理部 救急班）

岡 聖史
2021年 6月15日

総生会では2018年より危機管理部が設立され、災害時や救急対応への組織的な取り組みを行っています。それぞれを、災害班、救急班と称して活動を行って

ます。メンバーは、麻生総合病院 救急総合診療科の伊藤医師を中心に各事業所より選出されたスタッフ、約20名程度で構成されています。

具体的な活動内容は、救急カート(緊急時の道具一式が収められたワゴン)の内容見直し、研修実施、各種分析、広報活動の4つを行っています。中でも研修については、BLS(Basic Life

Support：1次救命処置)に力を入れています。毎年複数回研修日を予定し、法人内のスタッフへ直接指導する機会を作っています。

ロイヤルホームにおいては、医師が常駐していない施設になりますので、積極的にBLSの技術習得を進め、万が一の事態に備えることが重要と考えています。